

## 昭和51年8月3日(火)

渡部、向井、大橋、堀内、白川、南、磯尾、中島、中村、佐藤、横溝、蛭川、植松 以上13名、10:35amのバスで帰宅します。

## 昭和51年8月11日(水)

<入小屋：萩生田(15)>

8:00pm

8/11朝 市原の寮を出てきました。終バスで来たので、岡田さんの所に寄らずに来たところ。草刈りの人が小屋を開けていたので助かりました。整備の後だけに、割と小屋も綺麗になっていましたが、まず雑巾で食卓を拭き、座るところをきれいにしました。相変わらず私はきれい好きです。11日は15:00に妙高に着くまで何も食べずに、妙高の駅でやっとソバを食いました。そして夕食はカップ焼きそばを食べ、今日の朝食はマルちゃんの狐うどんを食べました。8時頃布団を干したら草刈りのおじさんがやって来ました。他には誰も来ないようで淋しい限りです。今年は大不景気で稲穂も未だ出ないと、下の人は心配していましたが、今日は良い天気、草刈りのおじさんがどこか出かけるのかねと聞くので、心にもなく高谷池までと言ってしまいました。言ったからには出なくては男が廃ると思ひ、カステラとトマトを持って笹ヶ峰まで歩いて黒沢出合1時間45分のハイペース(?)で歩きました。途中、車が何台もほこりを立ててバカにしたように通り過ぎて行きました。山の夏も盛りが過ぎたせいか人も殆ど歩いていません。十二曲がりに登り切ったところでソバばかり食べているせいか、ノビてしまい、仕方ないので昼寝をして帰ってきました。そして夕食に又焼きそばを食べて、今、この日記を書いている次第です。

さっき三月に持ってきた写真を見つけ、随分と少なくなっているのでアルバムに貼る事にしました。したら、大島の遺作集なるものが出てきました。大島の下宿で見た記憶のある写真が随分あり、また昨年、彼と行った八ヶ岳の写真もありました。何やら懐かしく、又悲しい気持でした。小屋に居ると気持が塞いでしまうので、グレンデに出かけ、大きな声で歌を歌いました。山の歌も大部分忘れかけ、歌謡曲も数年前のものしか出てきませんでした。考えてみれば、ここ数年、歌と縁のない生活ばかりしていたような気がします。山へ行っても牛糞あたりがいつも一緒に、歌を歌う事も無かったし、私もとうとう歌を忘れたカラスいやカナリヤになり下がった

ようです。

コーヒータイムの為 しばし中断

コーヒーを飲み終わって今、2階でシュラフに入りながら、FM 東京を聞いています。ランプの回りに蛾が寄ってうるさいので、蓋を開けておいた処、早速一匹自殺してくれました。もう一匹はおとなしく畳の上にとまっています。ところで私も社会人となって2年目、何やら近頃はスランプなのです。仕事の面では造船不況にも拘わらず結構忙しく、毎日多忙な日を送っておりましたが、最近では同型船ばかりで、前船の図面を手直ししてばかりいます。たまに白紙から描けば課長のヤツメ、目を皿のようにして、どうでもよいところばかりチェックしやがって、全く頭に来る毎日です。造船という所は、技術的には非常に保守的な所で、新しいことをあまりやりたがらない。私のような柔軟性に富んだ思考から出た、奇抜なデザインを、いとも簡単にボツにするのです。頭に来て、一言物申すと、余計なところ迄ケチがつくからやり切れないネ。そこで近頃は毎日1時間は、自分の時間と割り切って、会社で勉強するように心掛けています。しかし、学生時代あまり勉強のくせを付けておかなかったので、仲々思うようにはいかなく、つい居眠りをしてしまう訳です。話題がないので、しばし中断してNo.10を読む。小口さんが「ワングルはいいですね」(2月9日)と書いていますが、最近私もつくづくそう思うのです。ワングルをやっている時は何かと不満不平、物足りない気持もしたし、論議のための論議としか言いようの無い話しかしてこなかったのではとも、4年生の時には思ったりもした。しかし、こうして社会に出て色々な人間と出逢ってみると、やはりワングルで過ごした仲間ほど、お互い理解し合い、信頼できる仲間は居ないのではないかと思う。現役諸君にはOBのセンチメンタリズムとも思えるかもしれないが、少なくともあれほど人を理解し、また自分を理解して欲しいと思ひ、又努力した事も無かったし、大学生らしいつき合いをしてきたのではないかと思う。7月に大島が死んでから、私も色々考えたんです。何かとても悲しくて、毎日の生活の中で、大島を意識することも無いのに、何でこれ程までの虚脱感を感じるのかと。大島の死に対して、道夫さんの様に、無意味だと思ひ、とか、私には考える余裕は無い。ただ悲しかった。唯それだけでした。今は、こうした友人の気持ちを大切にしたいと思ひばかりです。

OB15th 萩生田 弘

## 昭和51年8月13日(金)

AM 8:30

8:55のバスで帰ります。草刈りのおじさんに鍵を預けて。何やら雨が降りそうです。傘を持っていないのでとても心配。また冬に、15期の連中と来ようと思います。

追伸 石油ストーブが入ったようですが、石油は有るのですか。10月迄に入れた方が良いでしょう。渡部へ。

OB15th H.H.萩生田 弘

## 昭和51年8月14日(土)

梅野、石川 15:00 到着

雨がものすごく降っている。NHK-Rの7:00pmのニュースでは、北陸・東北は大雨が降っているとのこと。山小屋へ今日入ってくる、と言っていた山下・小浜・白須(17期)が来なかったのは、この雨のせいだろうか。

本当は8/13に二人で小屋に来るはずだったのだが、色々事情があって今日になってしまった。

8/13に僕達は、笹ヶ峰の山向こうの小谷温泉に、何故か居ました。小谷温泉を13:20のバスで大糸線の中土駅へ、1時間位待って糸魚川へ。待ち時間が1時間30分位あって、約1時間北陸線に乗って直江津へ。本当ならそこから妙高高原へ、そして小屋へ、という予定だったのですが、もうバスは無いし、タクシーに乗ったとしても、7時頃になってしまうので、道夫さんの所へ行く事にしました。道夫さん、とっても忙しそうでしたが、telを架けたら出てきて下さって、ずっと付き合ってくれました。ものすごく面白かった。何処へ行ったかと言うと、相当僕は酔っていたので、不明確な所も有るのですが。

①清香園ー焼肉+ビール

②名前不明ーとってもおいしいお刺身+ビール

③スナックポニーーいか+ウイスキー

④バーナントカー女の人が居て、仲々面白かった。石川に言わせると、僕はとっても飢えていたとの事。それから何処をどう歩いたのか分からずに道夫さんの下宿に。

8/14今日、9時頃起きたら、勿論道夫さんは出社していて、二人でゴソゴソ。11時18分直江津発長野行に乗り込みに乗る。でも大雨で、列車動かさず。ヤットコサットコ12時過ぎに動くには動いたけれど、アッチで30分、コッチで30分と、もうイヤになっちゃう。どうにかこうにか、2時過ぎに妙高高原駅へ。バス(15:30)を待っているのもおもしろそうで無いのでタクシーに乗っちゃった。2000円。でも、と

ても面白い運転手だったから、あまり損した気がしない。ここで大失敗に気付いた。「あ！鍵を借りて来るの忘れた！」しょうがないからトイレの窓から中へ。昨日までウダさんが居た事を知る。会いたかった。

今、8:00pm。メシも作ったし、高校野球は市神港高校が勝ったり…。隣で石川がギターを弾いて、何となくラジオを聴いて、でもラジオの音がよく聞こえないほどの雨、帰れるかなー。

ウイスキーにレモンを入れて寝転んでこれを書いている。

今年はほんと色々な事があった。

山小屋日誌のトクシゲの文章読んで、又思い出してしまった。あんなに元気だったヤツがと思う。

今日で家を出てから1週間。8/8、6:50am新宿発アルプス1号に乗って…そこから今度の旅が始まりました。その話をやってみよう。

前々から一人で旅をしようと思っていて、それが仲々出来ずに、遂に4年生の夏休み迄来てしまった。ゼミの先生にやっと1週間の休みを貰ってこの旅に出た。でも、旅に出る前に少し悲しい事があって、割とグレーな気持ちで、夏休みでとても混んでいる朝の新宿駅へ。その日は岡谷で降りて蚕糸博物館へ、これは卒論の為の準備。そこで一人の女の子(都立大3年生、名前聞かなかった、とっても可愛い人)と仲良くなって、一緒に上諏訪へ。湖で何と2人でボートに乗ってそれから彼女が東京へ帰ると言うので駅で見送って、僕は諏訪大社へ。その後寝る所も無いので小口さんに何回かtelしたけれど、日曜日で小口さん遊んでいたのかな、不在。しょうがないから駅でゴロン。次の日は上諏訪ー高遠ー伊那ー長野(善光寺)。そこからクラスの友達の家へ。長野から1時間位バスに乗った、ほんとの田舎。次の日はそこでブラブラして夕方は松本へ。いつもの所でご飯を食べ、いつもの所でコーヒーを飲んで…。その次の日、石川と会って…色々あって、最初に書いた小谷温泉へ。

一人旅はとっても淋しい。特に今回は色々事情があって、特にそうだけど、昔だったらここで「ワンゲルと比べると…」と言いつつ出さずのだけど、それは言ってもしょうがない。

ー少し、休み、またあとでー

4年17th 梅野匡俊

## 昭和51年8月16日(月)

6:30

外はもう秋です。昨日までの雨雲が去り、絹積雲(うろこ雲)が広がっています。秋あかねが葉っぱに付

いた水滴を啜っています。小屋の中も静かです。梅野君と石川君が軒も立てずに寝ています。昨夜は遅かった様なのでもうチョット寝ているのかな。私は昨夕ここへ着いたのですが、16時間の運転でバテバテ、すぐダウン。実は家から直接ここへ来た訳でなく、新潟市に寄って来ました。別に用は無いのですが競馬場がありますから。しかし休まず運転したにも拘わらず、市内に着いたのが12時頃、そこから馬場まで1時間位なのですが、2km行くのに1時間かかってしまい、諦めました。Uターンして小屋に向かったのですが、これまた遠いのです。昨日までの雨の為、県内の道路に大分不通の所があつてもものすごい渋滞。まあ、とにかく今は小屋に居ます。今日から4日間、会社は休みをとってあります。一人ですし、車がありますから、何処へでも行けるのです。(おまけに競馬の資金が丸々残っているのです。)が、どうなることやら。

8:00

まだ2人は起きません。一番の列車で帰ると言っていたのに、間に合うのかな。と言って私もゴロゴロしています。食糧を何も持ってこなかったのが、朝食もとれません。後で2人を送りがてら買い出ししてくる積もりです。心の中で早く山に登れ登れと突っつかれているのを感じますが、時間はたっぷりあります。しかも、今日も午後からは雨が降るそうです。午前中は買い出し、午後は過去の山小屋の思い出に、一人静かに耽るつもりです。

それにしても、昨日は競馬をやりたかった。そうすれば(ここ数ヶ月、負け知らずなのでトーゼン昨日も儲かったはず)今頃、この山小屋などには来ず、どこか温泉のホテルでゴーセイに遊んでいたのに。

17:00 雨

ボケーとしているのも、今の内は幸せ。明日、明後日になったらどうでしょうか。2人を駅まで送りがてら食糧をしこたま買い込んできました。夕食はゴーセイですぞ。

酒…ワイン(赤) 安物、他に無かった。

鉄板焼き…勿論、鉄板が無いからフライパン。牛肉(234g もっとあるけど、明日の分)、玉ねぎ(大1ヶ)、Pマン(2ヶ)、なす(2ヶ)

調味料…塩、ブラックペッパー、醤油

鮎の塩焼き…大ぶりの鮎3匹

汁…永谷園の夕飯

飯…丸美屋のとり釜飯。

まだ食事には早いようですが、一応下ごしらえは終わりました。後はもう少し暗くなるのを待つだけ。量は沢山あるにので、3, 4人今から入ってきてても十分満足して頂けると思います。アア、誰か来ないかな。

アア、と言えば、又昨日の競馬の事です、行く前に7レースだけ、大体ですが予想していたのです。それが、その内の3レース的中していたのです(駅で新聞を買った)。何ということ。ワングルの皆さんは、競馬にはあまり詳しく無いようですので、一応書いておきますが、普通、競馬では3レースから4レースの内、一つでも当たれば元がとれます。それが7つの内3つですよ。今頃、私は月岡温泉に居たことでしょう。

19:30 豪雨

ものすごい雨です。ラジオの音も良く聞こえません。明日も妙高登山は中止のようです。ここ数年、山に登らなくなりました。この前に登ったのが去年10月に海保君達と登った火打山。今度どこか登っておかないと一年以上のブランクが出来てしまうでしょう。別にブランクはいいのですが、コンスタントに登っていないと、自分の体力の目安が分からなくなってしまうのが困ります。

## 昭和51年8月18日(水)

曇り

結局この三日間、何もませんでした。何しろ眠くて眠くて、いくらでも寝られます。食事も段々適当になってきました。酒も飲んでいません。山にも登らず、金沢の方へ行こうという計画も、8号線が不通の為だめ。でも本当に久し振りに自由に眠ることが出来ました。明日は早く帰ることにします。

## 昭和51年10月11日(月)

あ〜あ のんびりした。紅葉が実にきれいだ。梅野くん、8月は悪かったね。

おぐち

## 昭和51年10月28日(木)

一年 石垣・西田・板欽(20)、二年 白川・石井啓介・中島・南・磯尾(19)

9:50pm 入室

まず20th 石垣・西田、19th 白川が入り、暗闇の中をビクビクしながら水汲み、こたつ仕掛け等をし、今一息入れています。もうすぐ19th 圭介・中島・南・磯尾、20th 板欽が入ってくる筈です。本日はみぞれの中、岳沢に於いて、故徳繁の追悼Wが行われ、その帰途立ち寄ったものです。今晚は男八人、静かで重みのある一夜を過ごすことでしょう。ワングルには女の子も沢山居て、華やかでいいものです。で

も、たまにはこうして8人、徳繁や山の唄などを肴にして、盃を傾げるのもいいものでしょう。やはり山小屋は少人数でしんみり過ごすのがいい。今、残りの五人が来ました。(10:50pm)。言い忘れましたが、今日は待望のスノーボードが入りました。きっと今年のSKI講習会には大活躍(?)をする事でしょう。だれかさん、スノーボード乗客第一号はあなたかも知れませんよ！

## 昭和51年10月29日(金)

何となく近代化した感じのする山小屋へミゾレの中を歩いてきました。(道路脇の白い標識のせいかもしれない)。妙高が新雪を着け、秋の山小屋も格別なものですネ。一人つきりだと感傷的にならざるを得ない状況だけれども、今日は現役の人が整備に入っているの、山小屋が若々しい。勿論私も、未だ年若いのではあるが、比較上どうしても年寄りということになる。7月に大島と一緒に谷川へ行って、ああいうことになってしまって、現役、OBの方々には、大変な御心配と御迷惑をかけてしまった。やはり、今考えると自信過剰だったのかもしれない。

「山への自信を無くしたら山は止めよう」と思っていた。あの当時、本当にショックで、止めようと思った。

「自分自身に関してはまだまだ自信を持っている。しかし、パーティを組んで登ることにある種の不安を否認ない」

「ザイルパーティとして信頼していた彼が、あんな所でと思うと、今まで私が考えていた山行というのが崩れてしまう」

「結局は初めての時考えていたように単独行がまた多くなるのかもしれない」

「或いは、尾根歩きのみに限った山行をするか、緊張した登攀をして初めて、高原、低山歩きの楽しさが分かったような気がする」

とにかく、妙高は彼の故郷である。彼はあの日、これからは谷川を撮るのだと言っていた。

所詮人間は小さいものだ。そして弱いものである。人との繋がり無しに生きていけるものではない。その繋がりを一方的に打ちきられた時の空しさは言いようが無い。時間を待つ以外に方法は無いのであろうか。ワングル内における繋がり。何年か経って会っても、何か特別な感情を含んでしまう。対自然という圧倒的なものを相手にして、お互いの弱さを知り合っているからなのか。

### 14キ つるおか

また来年来ます！小口君、道夫君 お元気ですか。  
山小屋日誌(2冊)、大島の写真集、東京へ持ち帰り

ます。あしからず。

### 鶴岡一(14)

まだ10月というのに、外では雪が降ってきました。皆様は忙しく立ち働いております。手伝おうとは思いますが、せつかくのコタツの火が勿体ないので、一人であたっております。この冬初めてのコタツであります。何と心地よいのでありましょか。あーあ、早く”白山”に乗る身分になりたいですなあー、お互いに！

室温はなんと7℃なのです。この分では相当積もりそうです。でも帰らねば…外気温-1℃。

### 19:00

おこたの中に入っています。今、白川さんがししゃもを焼く網を作り、おこたの中から出ていきました。そして又、今入ってきました。昨日は夜、少し麻雀をやって、ラーメンを食べた後、すぐ寝ましたが、今日はバラエティーに富んだ日程が僕らを待っていたのです。朝起きる(実は起こされたんですが)と、鶴岡さんが小屋の片隅でじっとしていました。その他の先輩や板欽、石垣はおこたの中で、ココアとフランクパンと、食い気をそそりそうもない、肉が無くなったところのスープを目の前にして居ました。さすがの磯尾さんも、あまりスープは飲んでなかった様です(実は、一人で飲んでいた)。朝食後、小屋整備をしました。布団を干したり、掃除したり、暖房器具を直したり、ローソクなんかの残りもんを数えたりしました。暫くすると、あられが降り出し、慌てて布団を取り込みました。外の様子に注意を向けずに麻雀していると、ふと、雪がどっと積もっているのに気付きました。僕ら20期トリオ(石垣、板欽、小生)は、スキーをしました。雪が余り積もってなかったので、うまく滑れず、スキー板の裏に雪がこびり付きました。でも、全然寒く無くて、すごく愉しかったです。スキーを終えて帰ってくる時、入口に置いといた温度計を見ると、-2℃を指していました。不思議なことに、全然寒いとは感じませんでした。妙高の-2℃は、一体全体、横浜の何度だろうと考えました。

[夕食のテーブルにて]

その1. ジンギス汗(マトン入り)⇒南さん家風、ジンギス汗でした。本物のマトンを使ったんですよ。醤油と塩と赤葡萄酒と南さんの舌が、この料理の”いのちの母”です。これを食べた人は皆、南さんちへ行って、もういっぺん食べさせて欲しいと言うでしょう。南さん曰く「作った時間は長く、食べる時間は短い」

その2. 初雪と追悼W成功を祝して乾杯！⇒7:55pm

10/29. 乾杯（ビールで）を、おこたとストーブの暖かい小屋でしました。

その3.・ここまでは西田が書いていたが、彼は他愛もなく寝てしまった。口ほどにも無いヤツだ。現在、磯尾、石垣、白川、板欽の4人でラーメンとなすを食った。他の4人はもう寝てしまった。今夜は冗談だけでなく、クラブの話や山の話が、みんなの口から自然に出て、実のある話ができた。特にこれから執行部をとろうとする我々2年にとって、1年生の発言は非常に嬉しかった。みんな色々な意見を持っているが、根本には一つのこと、即ち、自然を愛する気持をしっかり持っている。何とかやっつけようだ。

### ある 19th 生

8:10pm

初めて秋の小屋に来ました。昨日は小屋からうっすら雪のかかった三田原・妙高・赤倉が見えました。遂に四季の小屋を打ち抜きました。追悼W帰りの小屋の中、いつも思う小屋の郷愁を、今回は別な気持ちで浸っています。事故があってから、徳繁の死を随分と客観的に見られるようになりました。そんな自分を冷たい感情の無い人間かなあ、なんて思うこともあるけど、追悼の時、雪が降っていましたが、アイツの死を悼むかのように、また来年追悼をします。来年は、また更に変わった気持ちで行くのかもかもしれません。あいつが死んだ頃、忘れない詩があります。あいつにピッタリの詩です。今も頭にこびり付いています。

剽軽の性なりし友の顔の  
青き疲れが今も眼にあり

## 昭和 51 年 10 月 30 日（土）

5:08pm

今日帰ります。石垣、西田、板欽（列車で）  
同じく磯尾、中島、南啓介、白川（車で）

## 昭和 51 年 12 月 4 日（土）

ガス

昨日 仕事をしていたら、フツと山小屋が思い出されて、町役場に電話をかけてみた。「雪、ありますよ〜。50 cm、リフトは土曜日からです。」という返事。  
今日の行動報告

▲ 9:30 下宿（直江津）起床

▲ 10:30 妙高1号、上野行に乗る。

キップ 3100 円 + 400 円（急行券）

▲ 11:30 妙高高原駅の飯屋に入る。一番高いカツカ

レー大盛

▲ 12:00 タクシーにて杉野沢着、一升瓶を下げて岡田さんの五八木荘へ。

▲ 15:30 1日券で、さんざんコロンデ（滑ってに非ず）、それから山小屋入り。

整備が行き届いているのに感心しました。

練炭に火を入れて、酒の缶をつけている。もういいかな。チビリ、ウーンもう少し。（数分後）どれどれ、飛り・・・ゴクン いける。現役が十分整備してくれているので、怠慢なOBとしては大いに助かります。有り難う。

先日、高木から「OB会報を出すので近況を知らせよ」なる葉書が届く。卒業以来会っていない。3年近くになるのかな。

【高木】といえば、山小屋にも一度も来ていないようだな。どうしているんだろう。あまりウワサは聞かない。そういえば例の葉書にも、自分についての事が何も書いて無くて、いかにも高木らしいと思った。ワンゲルに俺が入った時（1970年）、清水が丘から保土ヶ谷駅まで下って、トンネルを走って、又丘に戻るというトレーニングコースがあった。（俗称トンネル一本）。その時、小口、高木、石川（だったと思う）、俺の新人プラス竹村さん、\*\*さん（思い出せぬ）、村松さんが一緒に走る。全てコンクリートの道で、かかるとがズキズキした。高校時代、走るなんて全くやってなかったので、歩いてしまった。その時、上級生はやさしかった。すぐく気を遣ってくれた。アイスクリームを後で貰って、あれだけは忘れられない。高木は足が早かった。小口も走るのが速いんだよ。

【小口】はよく山小屋に来ている。けれど、やはりすれ違いで、卒業以来、一度しか会っていない。今頃になって、小口とゆっくり話してみたいと思う。やっぱり小口は魅力有る男だよ。学生の頃、小口の上大岡の下宿に泊まった事もあった。…その話あれは三年生の時だ。山川さん（その当時既にOB）と一緒に飲んだのだ。それで小口の下宿に泊まって。たしか吉田忠も居たと思う。朝、小口や俺はゴソゴソ起き出したら、さすが社会人の山川さん、電気カミソリで無い髭を剃っていた。大人になりたくないア、と思ったヨ。二日酔いで上大岡から歩いて弘明寺まで、何とか 10:30 の2限の授業に間に合った。あの時も大した話は出来なかった。それは、互いに未だ思想（思索）的に未熟だったのか？社会人として暮らして、間もなく3年経つ。どんな事に出くわし、何を考え、どう変わったのか？色々と話してみたい。

【日野】【吉田】どうしてるかな。どちらも化工、け

れど二人は両極端なのだ。同じなのは、どちらも途中で退部した事くらい。俺の育った環境から来るだろう、俺の思考方法、感覚の偏狭さゆえ、日野とは理解し合えなかった。あいつ卒業できたのかネ？仕事（アルバイトでなく）持っているのかな。

こうやって書いてゆくと、【鶴飼】、【鶴岡】、【狩野サン】、【西井〆】、【曾根原〆】、【久保田】（女の子でも、久保田だけはサンを付けるのが奇妙に聞こえる）とキリがない。もう、昔の話はやめておこう。今キジ撃ちしてきた。巻雲の間に月があつて、きれいだったよ。仕事の事など。この一年忙しかった。化学プラントの建設に携わって来て、勉強になった。自信もついてきた。30, 40 才の年輩の人と仕事で立ち向かっても、平気だな。自分の主張は遠慮せず述べるし、相手の言うことに納得しなければ、しつこく食い下がる。己が納得しない仕事をする程、ツマラヌ仕事は無いから。が、一方で悩みもある。対人関係ではウンザリする。結局俺が気を使い過ぎるからかな？

又キジ撃ち。今度は 月が冴えていて、スサマジイ。負けずに星が輝いている。仕事、人生、女、生き方漠然と考える。フー、嘆息ひとつ。人間は何故、生き続けていくのかなあ。日々の暮らし、喧噪が、とても遠いものに思えてくる。少し飲み過ぎたかな。

鈴木道夫 (14 期)

## 昭和 51 年 12 月 5 日 (日)

ガス

夜中は寒かった。もう AM 9 時を過ぎている。

▲正月は直江津山岳会の仲間 (5 人) と共に、火打を、北面より挑む。北側は積雪、風共かなり厳しそう。中堅の冬合宿。

▲正月 15・16 日は山岳会の新人と共に小屋に来ます。10 人近くになるかな。三田原山ピストンの予定。ワンゲルの仲間が居たら、社会人山岳会と学生ワンゲルの間で交歓会でも持ちたいですね。互いに得るところがあると思いますよ。その節には宜しく！

池の峰近くまでワッパで散歩に出た。小屋でゴロゴロしているのも嬉しいが、身体を動かす事も嬉しいものだ。今、サーと、ミズレが降ってきた。音が遠のいたり、またやって来たり。間もなく厳冬です。

s 47 年元旦の、稗田さんの日記を読むともなく読む。俺が現役の頃は、あんなにイカツイ稗田さんが、恐ろしい上級生に見えて、山へ行った事は勿論、話をしたことも殆ど無かった。山小屋日記を読んで、新しい知人を得たような気持がします。

ワンゲルでの仲間 (上級生・同期・後輩) から一人前として扱われたのが、入部した頃から今に続くま

で、とても嬉しい (有難い) 気持でいる。ワンゲルに入る以前から若干の劣等感があったから。ワンゲルの友、研究室の友、いいネエー。会社でも何人かの友を得た。己の殻を破って話しあえる友が・・・もう止めよう。マッ、すべからく何事も笑い飛ばして元気に暮らしていこう。

ps 1. 鶴岡？どうしている。元気で、何とか頑張れよトカ、俺は何も言えないけど…わかるよな。

ps 2. 12 期退部、北村秀明さんに水戸で逢う。日揮(株)原子力関係 相変わらず。

## 昭和 51 年 12 月 23 日 (木)

7:00pm

昨日、久保、磯尾、シゲオと 4 人で夜行に乗り、やって参りました。上野では大橋さんと木村さんに会いました。大橋さんは私達と話しに興じているうちに、私達の所にピッケルを置き忘れ、私が気が付くまでピッケル無しで、電車なんぞに乗ってノホホンとしているのでした。気が大きいと言うか、バカメと言うか。それにしても、今日のスキーには参りました。体中がミシミシ言っております。私も生命を受けて 20 年、こんなに恐ろしい目に遭ったのは数少ないのです。何て言っても、ザックを持って滑ったら、忽ち頭からブスッ！と雪中に突っ込みました。もう、真っ青というか真っ白。その上、一日中ボーゲンばかりに集中し、足がビロッと開いてしまいそうです。

今はもう夕食も済んでみんなでマージャンをやっております。シゲオ等は、小屋に着くなりコタツに飛び込んで もう麻雀牌をモミモミし始めるのです。マイッタ。私はマージャンよりもパチンコと映画に精力を使い果たしていますので、マージャンを覚える気力もなく、一人、この日誌に目を通しています。それにしても残念な事は、今年は山もそれ程登れなかったし、映画も去年の半分しか見ていないし、勿論、勉強の方もさっぱり。その上、アチラノ方はさっぱりで、二十歳を祝うにはつまらぬ事ばかり。全く方向を変えて、今年の映画について語ってみよう。まず、邦画は相変わらずで、私の期待を裏切ってしまった。寅さんは滅法お人好しになって、人に説教する様になっちゃったし、文太はまたまたトラック野郎などというお祭りにばかり、精を出してしまった。あの「仁義無き闘い」の様な、男の怨念と怒りはどこへ行ってしまったのか。ああ、お竜さんは、今や誰一人として越えていない。でも、東宝は仲々頑張って「犬神家の…」とか、モモエちゃんは相変わらずよろしいね。でも、本屋に負けるなんて、悔しいな。このワンゲルの人はヤクザとか、また青

春モノを馬鹿にするけど、これが日本の一現実なんだから、三回のうち一回位は邦画見てよ。洋画だつてつままないよ。ジョーズはおもろかったけど、後は大した事無いよ。クマやライオンやタコなんか出てきちって、あんなのより、絶対ゴジラ、モスラ、ラドンなんかの方が役者やのおー。来年の正月、お奨めするのは、ラストコンサート・がんばれベアーズ なんかはこの次にして、やっぱり邦画、特に春琴抄はおもしろそう。やっぱりモモエはワイセツで不純な幼妻風の顔してるのがいいよ。

明日もやっぱりこの項を続けようと思って続けて書く。私がよく見た作品は「東京流れ者」なんか五回以上、「けんかえれじい」も五、六回見た。「祭りの準備」も四回見た。いいものは永遠なのだ。ほんとにみんなにも見て欲しい。

今日はここまで、明日は、日活アクションシリーズについて書いてみよう。

**K.U. (19th) 海野?**

## 昭和51年12月24日 (金)

12/24 0:50am

今起きているのは1年4人。2年生はみんな寝てしまっています。我等1年は、西田の持ってきたウイスキーで1杯、つまみは西田が持ってきたけれど無くて、そこら辺を引っかき回して、ひっちゃきになってガッツで見つけた、カレイの干物を食べています。うまい。外は真っ暗。室内も-2℃、白い息を吐きながら、グラスには on the snow.

**(20キ. H.I.) 石垣?**

続きを書くのは E.S.氏。先日 (12/23) 初めて山スキー (チョゴリガ GF-1) を履き、最高の滑りはわずか2mで down。昨日は雪にまみれ、第3ゲレンデを1時間かかって滑り、というよりは転び落ちました。この分では、スキーをまともに使いこなせるようになるには、後何日かかるか? いいのです。僕は1977年1月2日まで、小屋に残るのです。後9日間、まだまだ十分あるのです。明日はクリスマスイブ (注、クリス〇マスイブではありません。) そして25日には絶対にやるのです、クリスマスパーティーを。その為に、シャンペン6本を、重い重い苦しみを味わいながら石川町から上野駅まで歩荷したのですから。

**E.S.(20)作山?**

第3の男、遂に登場!

妙高の冬は、正に冬の妙高らしい。雪山はいつでも山雪らしい。樹氷が綺麗です。愛しい君よ、今何を

している WHAT ARE YOU DOING? もし、闇と沈黙に涙しているんなら、僕の独り言を聞かすけ。

「岩木のおろしが 吹くなら吹けよ 山から山へと我等は走る 昨日は杉野沢 今日また妙高 煙立てつつ おおシーハイル。」

盗作臭いが、なから当たってる。今の心情ぴったり、間チャン ズッポ。タンピン三色一字一そう。二人で歩いた加茂川べり、二人で勝った菊花賞、二人でおいしいリンゴちゃん、また逢おう、また逢おう、何処かで。

ところで、今日 (12/24 ; 1:25) は、イヴ、明日、杉野沢から X'mas カードを送ろうメンタンピン。明日はメタクソ滑るぞ、1日券 (2000円) を買って、ガッツでいこう、エール構え。明日、いよいよ花が2輪来る。首を短くして待った花2輪。キジ場の傍に咲きそうな レンゲ草の中のコマクサとニッコウキスゲ。早く来い、花2輪。男10人待ってます、花より団子のお嬢さん!

**20キ Mammichan 西田?**

前記19th K.U.に一言 (またHI) です。「がんばれベアーズ」万歳。フルターマッソー、テータムオニール、私も見たいのです。ああいう映画が邦画にも マジに欲しいのです。私も 見る映画は洋画が多い訳なのですが、決して 邦画が嫌いだったり、馬鹿にしたりは してないのです。タダ、良い映画が少ないと思うのです。それと 上演館が少ない事。二流だと、一度回り終わると 仲々出てこない。アア、邦画よ。邦画も見ずに、洋画ばかりが 良いと言い、邦画をけなす奴は、死刑 本当に死んだ方がいい。バカ 死ぬ まぬけ。オレは寝ます。ちなみに「東京へ…」 「けんか…」 「祭り…」 は私メも 見ておるのです。邦画だって 良いのが沢山あるじゃないか。見て見ろ邦画を。(邦画嫌いの洋画ファンへ) 洋画も邦画も大好きな映画ファンより。小屋日記とは思えない内容で、全くどうも相済みません。U.K.殿 日活アクションシリーズに期待しており候。

**H. I.**

1年4人の内、もう一人の男は寝てしまった。故にその男の言葉を一つ。

男・ガリガリ (カレイの干物を囓る) 頭も食べちゃうもんねー。

Another one: 頭良くなるんじゃない。魚の分だけ。

男: 頭良くなりたくないもんねえー

これで、1年男4人終わり。(1:55am)

明日はガンバルぞ。スキーに-45.

1:55am、 麩がガーガー、男がむせぶ。寝息がスー

スー、ランプがシューシュー。外はシーンで シュ  
ラフがごそごそ。So much for today.

H・I (20)石垣?

0:50

水田君は この時書こうとしましたが、コタツに足を突っ込んだまま すぐ寝てしまった。だから今、12/31 7:30、後から僕が、この男子4人の中に存在していた事を宣言します。サイナラ。

## 昭和51年12月30日(木)

11 期稗田氏、赤倉より遊びに来る。ひたすら我々15期に会うため? 14期小口氏、諏訪保健所の人と入小屋。ひたすら我々15期に会うため?!

27日 小泉、萩生田、牛窪の15期 花のトリオで入小屋。30日に15期集結予定が、他の4人は未だ入っていない。きっと来ないのではないか という気がする。来ても、我々が居る間に来るかどうか。小泉、萩生田は明日朝一番で帰るとのこと。何と言っても大島が居ない事が淋しい。

さて私は、現在失業中、12月24日に会社(今までの)を辞め、4月からどうやら就職内定ゆえ、1-3月まで遊ぶのです。ひたすら遊びに遊び抜くのです。

現役の皆様には、1月より国大物理教室長原研に来て頂ければ、お茶の一杯もご馳走しますので宜しく。常盤台で出逢ったら、挨拶の一つもしてください。

うしくぼ (15)

Part I. 1976. スキー講習会について

上級生;みんなうまくなったなァー。知らない間に。一年生;うまいのバッカシ、マッサオ。大島さんのお父さんと弟さんも参加。

Part II. 雑感。

昨夜初めて、早大の小屋に行ってみました。コンパに招待されたのです。帽の人。あり。?

僕は明日帰ります。3年振りの 家での正月です。ちょっと滑り足りないって気がして…ア、家が上越線沿だから、家に帰って又、スキーをします。

時計の脇のピッケルは故大島さんのものです。鍵で取り外すことが出来ます。鍵は机の中。But 本当に非常用ですので…。

僕の仕事もやっと終わりました。これからは 南(19期)が小屋の世話をしますので、OBの皆さん、よろしく!

18期小屋委員長 渡部 孝

10:40pm

一階と二階に別れてやっていたマージャンも終わり。

今 コタツの中で非常に水っぽいホットレモンを飲んだ所です。12月24日に小屋に入って以来今日で7日目です。今日初めて、サンアントンで顔を洗い、歯を磨きました。頭は痒くてかゆくてたまりません。明日の妙高2号で横浜に帰り、各停の大垣行で田舎へ帰ります。電車の中で元旦を迎え、家には昼過ぎに着く予定です。3年振りに、元旦に家に帰ります。私の場合は、他の人と違って、高校の頃より下宿していたので、ここ6年ほどは殆ど家に居ませんでした。両親も最近、年を取ったのか、しきりに帰れ帰れと言います。もう21才になり、大人の仲間入りをし、もっと親の気持ちを分かってやりたいと思っ

て、今年は早く帰るのです。スキーは今回で5回目、通算35日くらい滑っているようです。その割には上達しないので、イライラしています。貢三と植草が1月に学校の講習会に行って上達してくるだろうから、明日も練習して、負けないようにしようと思っています。今年は遂にウェアを揃え、服装だけは華麗になりました。本当は、望遠レンズか引き伸ばしの道具を買うつもりだったのに、12月の中旬に小泉さんよりドロ\*テのスキー靴を貰い、急に予定変更、慌てて買ったのです。やっぱりスキー靴は滑りやすい、つくづく思っています。春はここで滑って、今度は他流試合を八方か苗場あたりに挑みたいと思っています。(但し、実力は伴っていないので、苦汁ををなめるだろうけど…)いつの間にか3年生になって、もう大学生活も 後わずかです。1年生の頃は大学生活が延々と続くような積もりで、ノンビリしていましたが、最近焦っています。勉強も、自分のやりたい課題が見つけだせそうだし、もっと色々遊んでみたいし、ただただ時間が欲しい。

今年は、山に賭ける積もりだったのだが、5月の事故で急に鼻をくじかれてしまった。周囲の状況も、あまり山に専念出来そうになくなってしまい、山から離れていく自分が恨めしい。私は、体力的に自信を持ってない為か、沢に登るような緊張感に、すごく魅せられている。確かに怖い。しかし、滝に登り切った時に、あのエクスタシーは口では言えない。単独行も非常に面白い。初めて独りで登ったとき、何となく、本当に山を好きになったようだ。それまで、上級生に引きづられて登っていたのが、自発的に登るようになった。部則で禁止されている、悪いことばかりやって、クラブを裏切ってきた。後悔も感ずるが、そこから部の活動を問い直す点では、私自身にとって、とても良かったと思っている。新体制での、考えるワングル というのも本当に魅力がある。いつも、バカばかりやっている私だが、もっと頭を働かせてみたい。大学に入った頃、人生論と



か哲学にすごく興味を持った。大学＝思索の場 というイメージが頭にあったせいだろう。そういう意味で、行動を伴った思索の場であるワングルを選んだのである。毎年、進歩がない内容を議論しているかも知れないが、この4年間を、後悔のないものとした。技術レベルの高い、山や沢も行きたい、しかし、それは大学を卒業してからでも行ける。しかし、こんなに純粋な気持ちで議論をすることは、大学生活の間だけだろう。

徳繁が死んで7ヶ月が経ったが未だに本当に亡くなった気がしない。あいつの、あのニヤニヤした笑いが、今にも目の前に出てきそうである。下界の日常生活の中では、あいつの死が何の影響もなく、事が進んでいるように思えて、何となく淋しい。アイツの死が、オレの心に何を残したのか、何度も何度も、自分の心に問うている。

もう終わる。 乱筆乱文お許しあれ。

18期 こまわり

## 昭和51年12月31日（金）

7:00

遂に1976最後の日となった。小屋にいと、全然、明日が新年という感じが無い。都会の年末の慌ただしさから離れて、小屋（山の中）で年を越すという、ワイの念願が今、叶うのである。来年はどんな年になるか、楽しみだ。

1年（20th）で今、小屋に残っているのは5人。そのうち一人は今日帰り、ワイも1977.1.1の夜行で田舎へ帰る予定。ついでにここに、1年の滞在期間を書き出してみよう。

（次 sheet 参照）

但し、滞在期間とスキーの上達度は、全然比例しておりません。＜特に作山氏の場合、それが顕著に現れています。＞

青山?(20)

7:23

とうとう小屋との別れの日が来た。21日夜行で小屋に入り、最初はスキーが愉しくてヒョコヒョコ出かけたが、8日目の29日、そして30日は全くめげてしまって、1日中、小屋で寝転がって、ウイスキーをチビチビやっていた。

最初の22日頃は、人数も少なく、静かな小屋で富田さん、海野さんらとギャーギャー騒いだのが大変面白かった。25日になってドッと人が来た。それなりに面白かったが、やはり小屋は少人数でひっそりとしている方が、楽しいかも知れない。

今日は12月31日、驚いたことに”大晦日”と名

の付く日なのだ。ラジオがないと、全然正月気分が出ない。でも実際”時”なんか、人間の創り物で、原始の社会に於いては正月なんてものは無く、きっと雪の中を狩猟に忙しく過ごす、ただの日常に過ぎないのだ。（ナニを言うているんや）

1976年3月迄は苦しみ連続。4月・5月淋しかった日々。6月 友達できて、毎日、夜 酒を飲んでた（特に石垣、田村）。7月8月夏、一次二次夏合宿、アツという間に終わった夏休み、9月忘れた。10月L養。11月12月”L養終わったら”の合い言葉も忘れ、流された毎日。授業は週に4回位しか出ない（作山は2回か3回くらい）。毎日毎日適当に生きてきた自分、一本、筋を通して生きることを考えなくては行けない。大学に入ってから、一日も欠くことなく、虚しさが心に漂っていた。充実感なんてちっとも感じたことが無かった。

1977年、この”虚しさ”を絶対に消滅させる。工学部ラグビー部に入り、火・木・金、勝つための練習をするのだ。皇海一尾瀬縦走もする。行動的生きよう、そして一生懸命勉強するんだ。

20期 T.Mizuta

本日、帰っても良い気であったのが、昨日小口さんが来たせいもあり、何となく明日帰ることにする。今日も何人か帰った。ようやく今日は12、3人の小屋になりそう。

植松、本多 入小屋、明日 蝮川と妙高山に行くとのこと。雪が降り続いていたので、カナメの所、雪崩 充分注意すべし。

本日も雪。笹ヶ峰へ行こうと思い、小屋を10時前に出る。ところがシールを着けて行かなかったので、池の峰までで大分苦勞する（トレースが有ったというのに）。池の峰から笹ヶ峰へ下る途中大きく曲がり込んで、そこからずっと下りになる所迄行って止める。笹ヶ峰の方も小雪がちらついていた。雪原に木がチラホラと立っている笹ヶ峰の景色を見て満足。

14時前に小屋に帰ってきて、これを書いている。別のボールペンが目についた。赤いボールペンとは気にくわれないが、さっきのよりは書きやすい。もうすぐ3時（午後）になる。ここいらでティーブレイク。…立ち上がって、やかんを探すと、朝のお茶の残りが入っている。片付けるのも面倒なので、お茶ベースのコーヒーでも飲んでみよう。まずい！年の頭になると、私も人並みに来年こそはと思ったりもするのですが、まあ、そんな事は来年の暮れの反省材料を今から作っているようなもので…。しかし、何はともあれ、生きているうちが華 という1年でした。来年は嫁さんでも見つけよう。

うしくぼ

《民宿、永高荘に捧げるエッセイ》

by M.N., I.A. (20キ)

昨日、どうしても風呂に入りたくなったんで、五八木荘へ行きました。ところが、風呂の水が無くて、風呂に入れなかったんです。ハイ。それから、まだ、どうしても入りたかったんで、近くの民宿を当たったんですが、やっと4軒目で、風呂に入れてくれたんです。大感激！やっと、1週間振りで風呂に入れると思うと、汚れた股引も、心なしか脱ぎにくくて、愛着さえ感じてきたんです。民宿の玄関で、おじさんやおばさんが親切に迎えてくれて、風呂に水が入っていないのに、わざわざ水を入れて、沸かしてくれたんです。おまけに、女風呂に入れてくれたんです。最近にしては、生まれて初めての公衆女風呂への入浴でした。入った後、揚げオモチ（4つ）やお菓子やお茶もくれて、本当に有り難う。

西田・青山?

7:30pm

今、華麗な晚餐を終えたところです。メニューは、大晦日の食事、1976年（昭和51年）の最後にふさわしく、スバーラシィーものでした。

◎ハンバーグ定食（・ハンバーグ：手の平大の大きさ、うまさ抜群 by 西田、武藤 ・サラダ：キャベツ and ニンジンの千切り by 青山 ・ポテトフライ）これらの物が大きな皿に溢れるように盛られている。上には、西田作製のケチャップソースがトロリとかかっている。○ライス：by 作山 and 武藤、割合うまく炊けた、焦げ無し。○ミソ汁：実は春菊のみだったが、香りが良く、香料を入れた様。by 武藤 and 作山。

12人分という、一番作りやすい数の為、食当（OB以外）はもう、乗りに乗って、懲りに凝ってしまった。小生、一瞬 山小屋に居るといふ観念が無くなった程である。

今、8:00pm ラジオからは、例のレコード大賞という商業レースのお祭り騒ぎが聞こえてくる。食当は早速、11:45～頃から食べる年越しそば（山菜ソバ）の準備にとりかかっている。そして、元旦の朝は雑煮。今年は華麗な食卓に終わり、来年も華麗な食事に始まる様だ。

P.S. 一昨日の早大コンパでは、石井さん（早大ワンゲル）が、見事な包丁捌きを見せてくる。全長1m 近いカジキを刺身にしてくれました。その美味しいこと、素晴らしかった。今度、国大でもカジキ or マグロを買って、早大ワンゲルを招待しようと思います。

P.S. no 2. 今、酒の肴が焼けつつあります。酒

は、日本酒一升とWサイズが一本。

現在、小屋に居て、年を越す member は・・・

一年（20th）⇒西田、青山、武藤、作山。

二年（19th）⇒磯尾、南。

OB⇒牛窪、小口、植松、本多。

部外者⇒蜷川、井上(?)（敬称略）

written by E.Sakuyama

8:10pm

作山に引き続いて

今、レコード大賞をラジオで聴きながら書いています。今日は、25日 小屋に入って以来 風呂に入りました。買い出しの後で五八木に米を貰いついでに風呂を頼んだら、未だ沸かしていないとのこと。すぐ近くの美雪荘に行ったら、タダで入れてくれて、磯尾さんと一緒に風呂上がりのビールを飲んで、ラーメン食べて、最高の気分です。髪も爽やかになっています。（横に居る作山は汚いけど）それから、今日の晩飯は、本当に美味かった。そろそろツマミが出来て、on the ツララで飲める。本当に最高の気分です。

(20期 K.M) 武藤?

10:30 p.m. (20th I. A.)

今日は大晦日、紅白歌合戦を小さなラジオで聞いています。今日の夕食は実にハンバーグステーキ。勿論手作り。こんな素敵な晚餐は、小屋では初めての事です。OBの人達もビックリ。作った僕達もオヨヨのうまさなものでした。ハンバーグ用のソースもちゃんと作ったのです。その後はおつまみを作って、日本酒（関ノ川）とハイニッカ&ジョニ黒！ワイ。この後、勿論年越しそばを作る積もりです。（山菜卵とじそば）。明日 元旦には、蜷川さんと本多さんと、植松さんが妙高山へ行くようです。晴れるといいですね。

そろそろいい気分になりました。後1時間程で今年が暮れていくと思うと、何だか心がしまります。来るべき1977年に向けて、今在る自分を、如何にして、心を通えば良いのか。酔っている僕は考えることが出来ません。爛もよし、冷やもよし。酒は心地よし。

この1年を振り返ってみて。1月は非常に焦ってました。2月になって、物理に昔の冴えが無くなっているのが真っ青になり、そのまま受験を迎えた。いっぱい落ちながら、最後にここ（国大）に来たのです。山岳部とワンゲルの二つに迷い、結局Y.W.V.に入り、キャンピング、一次、二次、夏合宿…、辞めたいと思ったことも何度もあったけれど、今もワンゲル。これから先も辞めないでしょう。スキー講

1111

習会も終わり、残っている人も少なくなり、三年も  
そろそろ引退、心を引き締めて新年を迎えなくては。  
ガンバロー。…紅白も終わりに近づき今年も終わり  
だな…

I.A.(20)青山?

## 昭和52年1月1日(土)

1977年1月1日 0:00am

万歳！ 万歳！ 1977年 s52年 元旦。明けましておめでとう。本当におめでとう。年越しそばありがとうございます。明けましておめでとう。謹賀新年！迎春。春一番。今年は蛇歳です。皆様、へびの如く、しなやかに、敏速に、優雅に。へびの如く、沈着冷静に、柔軟に いや 強硬に、積極的に、自主的に、寛容に、健康に。

学生生活を満喫しよう。フレ、フレ、YWV！ フレ、フレ、国大！ フレ、フレ、なえな小屋！ フレ、フレ、1年！ フレ、フレ、磯尾！ フレ、フレ、OB！ フレ、フレ、妙高山！ とにかく本年も目一杯突っ張って頑張ろう。本年もよろしく。よいお年を！

ばんざい！1977年元旦

オレはやるぞ！ ゼッタイにやるぞ！ 死んでもやるぞ！ 男の意気を見よ！ 今年はゼッタイにやるぞ！！

(1年20th K. M.) 武藤?

今年は、絶対、やるぞ！ S. 52 1/1 (元旦)

1年20期,, Mg Ni

前の二人は、元旦という事に酔いしれている。こう書いている本人も、実は酔いしれているのである。遂にやったのだ。19年間の慣習を破って、家で新年を迎える事無く、山で、小屋で、雪の降る中で、新年を迎えたのだ。一旦外に出れば、そこは雪の、白銀の世界、雪は駿々と降り、辺りはシーンとしている。目の前には苗名小屋が雪を被って、そして、暖かい光が萌えている。本当に素晴らしい新年だ。俺は新年に当たって、心に誓った事がある。実は去年から誓っていたんだけど、新年、新たに心に誓う。それは…ないしよなノ。

本当は冬の、雪の尾瀬で迎えたかった。でも、今のワンゲルでは許されない事なのネ。残念、3年後をひたすら待つ。(これ本音、建前とは違うのだ、アハ) 今年、絶対尾瀬に行く。早池峰に行く。花々、エーデルワイスを見たくて。

青山、西田、武藤、磯尾さんは、完全に酔っぱらっている。牛窪さんは眠いのを我慢して起きている。南さんは轟沈。本多さん、蛭川さん、植松さん、小口さん、??さんは明日があるから寝ている。こう書いている小生も、さすがに眠くなってきた。さて、寝ようか。

1977.1.1. 0:30

1977.1.2. 1年20th E. Sakuyama

今、新年を迎え、西田、武藤のギターと歌を聞きながら、一人Hi-NiKKAを飲んでる。酔っているのか、字が舞っている。山の事を考えている。青い空に憧れ、背伸びして山へと足を運ぶオレ、青いヤッケに青いオーバースボン、青いスキーに青いオーバーシューズ、青いオーバー手、青い空へ溶け込みたくて、登るオレ。全てを忘れ、命の張りつめる瞬間を望んだオレ。生きている証しをさがして歩いている。淋しがりやの意地っ張りのオレ、山に想いかけるオレが好きだ。都会で滅入っている、可哀想なもう一人のオレ。何も分からずに、唯、歩き生きようとしている。全て捨てて、山へ向かう本当のオレの心よ、安らかに山小屋に憩え。オレの好きなスキー登山。アイゼン、ピッケルを使うよりも最高にいい。北アを滑る夢を暖めて、スキーする。形より安定性を求めたオレの行き詰まり、基本よりやり直そうととして悩むオレ。頑張ってみよう。シーハイル。いつもall roundに山を知る事を忘れずに、毎日努力していきたい。この1年、事故に追われ、新体制作りに追われ、主将として頑張ろうとしているオレは、今、力を失いつつある。山へのオレの生命力である、創造力とトレーニング、失ってはならない。新年の誓いとして”山への情熱を燃やし尽くす”ことをもう一人のオレに宣言しよう。友よ、オレは負けるわけにはいかない。山への情熱は失わないから、安らかに眠れ。

1977.1/1 2:14 19期. ブルーな心のバカタレ

2年19th 磯尾

2:25am

今はもう起きているのはオレと西田と磯尾さんだけになってしまいました。今日の午前0時元旦は、年越しそばを食べて、ウィスキー、酒を飲みました。今は西田のギターでS&Gをオレと二人で歌っています。こういう元旦の過ごし方も良いですよ。女の子が居たら完全にロマンティックになってしまいそうな雰囲気です。キャンドルの炎が揺れて、しみじみと歌を歌う。それから西田の口癖「作山の奴、だらしない男じゃよ」、一と言うのは、作山がピックを無くしたため、昨日の大晦日と言い、今日の元旦と言い、本当に良い年越しが出来ました。来年も又小屋で年を越したい気分です。(蛭川、本多、植松さんが今日、妙高へ行きます。それから作山、南さんも、今日帰ります)。ではこの辺でひとまず筆を置きます。日の出を見た後また。

(1年20th K. M.) 武藤

西田め、オレの事を水田と間違えるな！

武藤(19)

6:00am 妙高山へ出発！おかしいおかしい3人組。  
計画書は鏡の脇です。3日の夕方までには帰ります。

OB16th H.U. 植松

6:48am

只今、本多さん、植松さん、蜷川さんの3人がスキーを担いで、妙高山目指して出発しました。正月をピークで迎えたいとは、誰もが思うことですね。僕らは、仕方ないから、裏山の黒姫の町に見える丘へでも行こうかな。やっぱり、山でのお正月は最高ですね。僕達、今起きているのは、磯尾さん、作山、オイラー、南さんの4人です。これからお雑煮でも食べて、先輩らの無事の下山を祈りましょう。フレ、フレ、3人組。今日も一日ガッツでいこう。

1年20th M.N.西田

9:58pm 20期 aobe

今、小屋に居るのは6人です。磯尾さんは夕飯を食うと…(マジックは裏ににじむのでボールペンに替えます)…すぐに寝てしまっ(昨日の徹夜が効いているのでしょ)、他の人達も次々に寝てしまいました。僕一人、何となく目が覚めていて、長い夜をなんとなく過ごしています。今、静寂を破っているものは、ストーブの燃える音、ランプの音、柱時計の刻む音、そしてみんなの寝息…。あっ、今、蜷川さんと本多さんと植村さんが帰ってきました。挫折したようです。ここでしばし中断。

1年20期 aobe 青山?

## 昭和52年1月2日(日)

1:05am 20期 Mammichan

今日帰ります。12/21の夜行で来てなんと11泊13日。目下、OB諸公、磯尾さん、武藤の5人は寝て、起きているのは青や僕の二人。遠慮気味にギターとハーモニカで、山の唄などを合唱しております。今の雰囲気は、なかなかです。久しぶりに、小屋での夢のような1日の再来なのです。今、働いているのは、石油ストーブ(1)、ブタンガス(1)、練炭(1)のみです。外は雪も止んで、何となく明日は良い天気になりそうです。これで18歳の冬ともお別れです。明日はいい顔で帰りたいものです。そういえば、昨日1/1、10:15pm頃、妙高組が無事帰ってきました。ピーク云々は別として、とにかく御苦労さん。※いま、読んでいる貴方、下の暗号を解説して下さい。

い。(僕もよっぽど暇人ね。)回答は裏表紙。

1年20キ Mammichan 西田?

## 昭和52年1月3日(月)

2:40am

16期本多賢、12/31-1/3迄滞在します。1年振りの山小屋です。都合をつけて来年もやって来たい。妙高は登れず。スキーはボチボチ。スケジュールは非常にtight.所持金はvery little.いろいろな事があっていろいろな事がありそうな、そんな印象。人は変わり、自分も変わり、回りも変わり、変わらないのは回りの景色ばかりなり…。まあ、そんなものでしょう。とにかく懐かしいの一言。

現役の皆様、OBの皆様、来年の正月に再会できることを希望して…。

P.S. 現在大阪で商事会社に勤務しております。

06(363)1221 第一実業(株)海外部第一課  
0729(97)8303 第一実業みのり寮。大阪方面でお立ち寄りの際は、連絡して頂ければ幸いです。 -以上-

OB16th 本多

1:05pm

1日の6:50amに小屋を出て妙高山へ向けて出発したが、モモ迄、深い所では腰迄のラッセルで、カナメ到着は1:00pm。カナメ以降は腰以上のラッセル、大谷ヒュッテまで標高差200m、疲労、寒さ等の理由により4:00には大谷ヒュッテに着けそうになく、諦めて池の平スキー場へ降り、夜10:15に小屋に帰還した。残念だけど仕方ない。機会を見つけてアタックするつもりだ。去年は、自分がLでの事故。大島さんの事故、その後の報告書作成…。その一つ一つが、これからの自分に指針を与えてくれているので、”一生懸命やるんだ”という気迫が湧き上がってくる。

本日午前中に、磯尾の弟とその友達3人が入小屋。夕方に石井(啓)と弓削が入小屋。私メは、風邪を引いて昨日・今日とスキーに行かずまさしく寝正月!

OB16th 植松

## 昭和52年1月4日(火)

8:30am

8:00起床。室温氷点下3℃、3つのストーブに石油を入れている。昨夜は4人で角ビン1本を空ける。半分ぐらいは磯尾が飲んだような気がする。ツマミ

1014

はちくわ2本、Qちゃんチーズ、それに弓削君家からくすねてきたおせち料理の一部。磯尾は途中で突然寝てしまった。そのせいか、少々風邪気味の様である。現在、弓削君が一生懸命朝食を作ってくれている。磯尾メは、食べ残して固くなった、気持ちの悪いモチを煮て、ウマイウマイ と食べている。植松さんに言われてしまった。”ケイスケ 未だ行かないの”。実は、昨夜、明日は9時には滑りに行くと言っていたのです。しかし、起きたのは8時、どうも今日は、10時過ぎないと滑りに行けそうもありません。

2年19th 石井

## 昭和52年1月5日(水)

9:10pm

明日 全員帰宅の為、掃除をした。ブタピカランプ用カートリッジの残りは33ヶ。ロールの残り 5ヶ。玄關脇のドラム缶には石油満タン。ワックス 赤1ヶ。みそ 充分あり。

明日 妙高3号の予定。

OB16th 植松

## 昭和52年1月6日(木)

※1:26am

昨日、井戸の目印に赤い細引きを、蓋とソバの木に結びつけた。木の上部にはストックが付けてある。春、最初に小屋入りした人は、必ず井戸を掘ってください。なお、石油は小屋の北側に埋まっているドラム缶に1/3程あるので、頑張って掘り出して使ってください。

9:35am

高校生達は、朝の食当。ゴミ焼却が済むと、ザックを背負ってゲレンデへ向かった。骨を折らないように祈る。啓介、弓削、植松さんは上で寝ている。仕方なく後始末をして、オレもこれから一寝入りしようと思う。

11:50am

小屋には、私一人だけになりました。明日からまた、数字とニラメッコの毎日が続きそうです。三月には、また来る予定。

妙高山は当分諦めて、赤倉山ピストンをとりあえず目指す。

OB16th 植松

## 昭和52年1月15日(土)

直江津山岳会の仲間(10人程)と山小屋に入る。掃除、整理等、行き届いていて感心しました。石油ストーブ、毛布、布団を使いましたので、明日の出発時には、やはり綺麗にしてゆきます。

数日前、徳繁君の遭難報告書が届きました。14期の川端の事故の際にも報告書を出し、事故を起こさぬこと、ワングルの活動方向を討論しました。三たび、不幸を起こさないように!

明日、サブで三田原をピストンして帰ります。5月のOB総会には必ず出ますヨ。

OB14期 鈴木

## 昭和52年1月16日(日)

三田原ピストン終了(これから帰ります。)出来るだけキレイにした積もりですが、土間が雪まみれになってしまった。許してナ! 宿泊費、入れといた(3200円)

OB14期 鈴木

## 昭和52年3月1日(火)

10:30am 17th 山下、18th 壺井

春の入小屋第1陣として到着。(9:00am) 鍵を持ってこなかったの、窓から入る。それも、よりによってトイレしか開いてない。ザックを中に入れて、一段落して、コーヒーとココアを飲んで、今、ラジオを聞いている。もう少し経ってから、下まで降りて買い出しをして、岡田さんの所で鍵を貰ってくる積もりです。

(3年18th 壺井)

## 昭和52年3月2日(水)

1:00am

昨年正月以来、15ヶ月ぶりに山小屋に来ました。少し眠ったせいか、段々月が冴えてきました。壺井君は先程シュラフに潜り込んで眠った様子。昨年3月から研究室で卒論を始めて、先週土曜(2月26日)に提出した。68頁のまあまあのものと自負しております。この1年間、殆ど研究室で過ごし、家にはあまり居なかった。1週間のうち、家で食事をしたのが1、2回。後は研究室に入り浸りで、朝の9、10時まで実験をし、その後少し眠ってはまた実験という毎日。この1年間で得た収穫と言えば、麻雀がうまくなった事かな。1日、半荘2、3回は必ずやったのです。

久しぶりの山小屋はやっぱり良いですね。たった二人きりだけど、とても静かです。夕食はカジキマグ

1015

口の刺身、鯨の缶詰、ウィンナー、チキンスープ。全て壺井君が作ってくれました。最近とみに怠慢を決めこんでいます。でも昨日は、階段を作り、井戸を掘り出すべく1時間も奮闘するも、結局探し当てることは出来ませんでした。

山小屋はやはり5月が一番良い。萌え出ずる新緑、山菜、真っ白な山々、冷たい井戸水 etc。5月に来たのは一年の時だから、それからもうすぐ4年が過ぎ去ろうとしています。今年も絶対来ます。そして火打に登るつもり…。でも、念願の皇海一日光白根一(尾瀬)の縦走も残っているのだ。今まで2回アタックしたのですが、2回とも日光白根まで行けず、いずれも中禅寺湖へ降りてしまったのです。このコースのポイントは皇海の登り、ヤブに於けるルートファインディング、天候判断等、かなりの難コースだと思います。でもそれだけに、たとえ縦走できなくとも得るところが非常に多いコースであります。現役の諸君で、この縦走を行おうとしている人、誰か居りませんか？

4年 17th 山下

8:00pm

午前中、鈴木(栄)と上野が入ってきた。山に登るようで、スキー、ワカン、ピッケル持参。午後から壺井はゲレンデへ、栄は杉野沢に荷物をとりに、上野はシールを着けてそれぞれ出発。私もしょうがなくスキーズボン、スキー靴で外に出てみたが、ゲレンデに行く気も無いので、シールを山スキーに付けて笹ヶ峰へ向けて出発。初め林道沿いにトレースの通り行くも、面倒くさくなり、池の峰と三田原のコー目指して直登。1時間強で、牧場の一番端に到着、かなりのハイペース、まだ体力は衰えてはいない。京大ヒュッテまで行こうとしたが、雪が降ってきたので中止して小屋へ戻った。所要 2020 分、随分ゆっくり滑ってきたものだ。

帰ってきて3時半から夕食の当番を賭けてマージャンをやる。半荘1回で終わったのが何と7時半。結局壺井と栄が食当になり、今シチューが出来たところです。

4年 17th 山下

昭和 52年 3月 3日 (木)

9:30am

本日は 9:00 起床。昨日は、というより今朝は 4:00 頃までマージャン、寝たのは 5:00am 頃。外では雪が降り、赤倉はガスって見えない。さっき、上野と山下さんが起きた。栄は未だ寝ている。

昨日のマージャンはひどかった。いつもは華麗な麻

雀を打つ私メがメタクソ。結果は取って書かない。昨日の負けに後ろめたさを感じ、朝の食事は私メが率先して作る。石油も入れたし、練炭も点けた。考えてみればよく働いているな。これも残りの面子が…。井戸掘りを絶対完成させるぞ。昨日はミズレが降って降っていたので、濡れるのが嫌で、全然外回りの仕事をしなかった。一昨日は私メの身長くらいの高さまで掘ったので、今日は後 2m くらい掘れば、ストックを刺して井戸を探り当てられるだろう。雪が重たくて全然滑れない。ベチョベチョで、転倒すると体が濡れてしまう。必死で練習して、早く上手になりたいのに。結局、丸三日間で、リフト券 3 枚位しか使えない。帰りに赤倉スキー場に行って”初めて”他流試合を挑んでみようと思っているのに、どうもおぼつかない。冬より下手になったみたいで、自己嫌悪に陥っている。3月下旬から4月中旬にかけて、羽田空港のバイトでもやって金を貯めたら、東北の方へでも行きたいナァ。あくまでも夢かな。

3年 18th 壺井(ツボイ)

1:20pm

4時の特急 白山3号で帰ります。座れるかどうか分かりませんが、とにかく3時のバスに乗るべく、後 30 分程で、小屋を出ます。今回は3日間居て、リフトに乗ったのはたったの7回。殆ど小屋に居た。正に卒論の休養でした。今度は卒業式の前に来る予定。その時は沢山滑るぞ…。残った3人へ。時間がないので小屋の掃除出来ませんでした。後は宜しく頼みます。あしからず。

(4年 17th 山下)

11:15pm

BGMを聞きながら酒を飲んでいる。さっきまでは上野と栄の音楽談話を子守歌にして好い気持ちで寝ていた。明朝 7:10am 杉野沢発のバスで駅まで行って、8:10 のバスで赤倉に行く予定。勿論、明朝起きられたら の話であるが、小屋を 6:20 頃出るとすると、ゲレンデはガリガリだろうなあ。やっぱり、めげて明日も妙高国際で滑っていたりして。昨日と一昨日は雪がベチョベチョで、非常に滑りにくかった。今日はアイスバーンの上に新雪が積もり快適だった。Weekday の上に、雪が降っている為、ゲレンデに人影はまばらで、第4ゲレンデなど、滑っている人は両手で数えられる。

井戸掘りはあっけなく終わってしまった。1m くらい掘ると、井戸の蓋にぶち当たった。それから蓋が開くように、上を削り、足場を作り、おまけに階段まで付けた。但し、元気が良すぎて、井戸の蓋を壊してしまった。カンベン、カンベン。縁側の方の雪

を少し降ろした。怠慢人の栄君が大活躍をした。  
少し酔っている為か、字が乱れている。(酔ってなくても、そうかもしれないけれど)。もうそろそろ寝よう。オヤスミナサイ！

### 3年18期(こまわり)壺井

11:40pm

こんな静かな山小屋の生活は初めてだ。壺井は既にシュラフに入り、栄も酒が回ったせいか、私の横(コタツの中)で鼾をかいている。それにしても静かだ。昨日まで続いた春の陽気も、今日はどうって変わり、冬型の気圧配置。今日、鈴木栄と笹ヶ峰に向かって出発したのだが、途中で余りに道草を食い過ぎたのと、視界が利かなかった為、気が付いたら永沢川の断崖に立っていた。来た道を引き返すのに精一杯で、牧場に華麗なシュプールを残すことは出来なかった。それにしても、人間の方向感覚なんて、いい加減なものです。僕達は、林道を見捨てて勝手ままに歩き回ったのが失敗だったようです。1, 2年の皆さんは今月中頃、笹ヶ峰へスキーに行くそうですが、視界の利かない時は充分気を付けてくださいな。

それにしても、春の小屋周辺はイイものです。樹林帯であろうと沢の崖っぷちであろうと(注意すれば)、所構わず自由に滑りまくるところが魅力的だ。私はゲレンデスキーは専門的なので、春に小屋に入った時は、ゲレンデは無視することになっている。その為、行動範囲がやや広がるが、ゲレンデの舗装道路並に踏みならされて斜面を滑るよりは、近くの樹林帯を歩き回っている時の方が、遙かに大きな充実感を得られる。何よりも、自分が山に居るといふ喜びを感じるのだ。

明日壺井は、横浜へ帰るといふ。困った。小屋に残るのは、18thで、その怠慢から名を残した私と栄の二人のみ。いつ餓死するか分かったものではない。

### 3年元18th (T.U.)上野

## 昭和52年3月4日(金)

11:00pm

3月1日の夜行で、元部員が妙高へ来ました。あらぬ先客2名(失礼!)に驚き、2日は個々の仕事とマージャンで過ごし、3日に笹ヶ峰、日だまり山行を目指すが、大陸に1070m b、三陸沖に980mbの高気圧と低気圧に挟まれ、冬型の天気の中、視野が利かないまま、ルートを失い、下図(省略)の通りの失敗。4日目は赤倉に成功。ご参考までに、図I・IIを示します。おい!上野、ちゃんと説明しろよ!

### (3年元18期 鈴木栄)

このノートに「赤倉登山」の記録を残す事は、我々が部外者であるとはいえ、全く問題がないとは言えない。けれども、山小屋日誌を見渡しても、小屋が一番近いピークである「赤倉」についての叙述が、あまり為されていないのは寂しい事だ。ゲレンデで滑っていても、最も身近に見える山、それがあの大きな茶褐色のガレにまばゆい新雪を波打たせた「赤倉山」である事はご承知の通り。

この日記が日の目を見るかどうかについては、あまり関心は無い。ただ、苗名小屋を利用した元部員の一日の行動概要を、ここに再現することは、いわば、小屋を利用した人間の一つの”業務”であるように思うので、敢えてペンを取った次第である。

朝6時起床。チャーハンと中華スープで簡単な朝食を済ませたにも拘わらず、小屋を出発したのは10時を回っていた。尚、壺井は赤倉スキー場で滑るべく、朝一番のバスを目指して、起床と同時に杉野沢へ下って行った。気圧配置は典型的な冬型となり、時折晴れ間の覗くこともあったが、曇り空の多い一日であった。昨夜から降り続いた新雪が、一週間ほど続いた春ウララの陽気でアイスバーン状となった旧雪の上に積もり、この二重の異質な雪のおかげで、今日一日は随分と泣かされた。

旧第三リフト(今では第四リフトと言う)の終点から派生している尾根に向かって直登を開始する。くびき周辺の山に来ていつも思うことは、樹林一本一本の間隔が非常に広いということだ。北八ヶ岳等の樹林帯に比較すれば、その差はハッキリしていると思う。こうした条件が、この地でスキー登山の発達にプラスに作用したのだろう。冬型の逆戻り天気ということで、厚着を重ねてきたのと、日頃のトレーニング不足から、汗を流し、赤倉山の1840mピークに到達したのが11時50分頃だろうか。途中で一度レストを取っている。この1840mピークとは、赤倉への尾根が丁度馬の背のようになっているところで、この付近は完全なアイスバーンになっており、”下り”の困難さを考慮して我々はスキーデポをした。

小屋-(1:40)→peak(1840M)-(1:45)→赤倉頂上-(0:40)→peak-(0:40)→第四リフト (TOTAL TIME ABOUT 5:00)

時折、晴れるガスの合間から顔を出す黒姫の双耳峰、ジャガイモのようにゴツイが堂々と腰を下ろした高妻などの山々が実に見事だ。この辺りまで登れば、スキー場の音楽は殆ど聞こえない。1840mピークからは渋谷の源頭と思われる平原へ、二つの雪ピ(屁という字はカラキジのことか?)を乗り越え到達。ここからタラタラとした登りを続けること4,5分。



急な斜面に取り付く。ワカンの爪が大いにその効力を発揮した。又、バランスを取る為と、滑落を防ぐ為持参したピッケルも大いに役立った。自分の進行方向に対して、まずピッケルを打ち込み、そのピッケルに捕まりながら、斜面を強引に這い上がるという方法で、端で見えていてもあまりカッコの良いものではない。雪が柔らかければともかく、こうガチガチにクラストしては、見栄も外聞もあったものではない。その急斜面を、高度差にして100m位登った時であろうか。人の声が耳に入ってきた。1840m ピークの近くに、スキーヤーが4人ほど上ってきて居たが、彼等は赤倉へ登ってこなかった。それはそうだろう。風はかなり強いし、急斜面で、おまけにアイスパーン、もしくはウィンドクラストした斜面を前にしては…。赤倉の山頂に着いたのは午後2時 just。風が強烈だ。目の前には妙高本峰が屹然とそびえている。天気が悪いため神奈山・三田原と外輪山周辺しか視野に入らなかった。三田原山は目のすぐ前である。雪尻を赤倉に向かって張り出している三田原の斜面は、赤倉のソレ程急ではないようだ。赤倉山頂からの下りが実に恐ろしく見えた。ガチガチにクラストしている上、斜面がスパリと落ちているように錯覚させる。その急斜面を前にして、どのように下ったら良いのか、困ってしまった。風が異様に冷たく、頬や鼻の頭は真っ赤だ。それに天気も悪くなる一方で、アセリばかりがつのった。山で難しいのは登行より下降であるという一般原則を、この時、体を以て思い知らされた。ワカンで下降できるような雪質と斜面ではないし、キックステップを使っても、滑落すれば100mは落ちるだろう。ピッケルにしがみついて、尻制動ではスピードが出過ぎるため、滑落停止の姿勢を繰り返しながら徐々に下っていった。(未完) —眠くなってきたため。

3年元18th (T.U.)上野

(以下、鈴木栄記録)

付加するならば、小屋から三田原に登行する場合、第4リフト→赤倉→三田原南峰のコースが意外と有効ではないだろうか。今回でも、天候が良く、且つ、2時間ほど時間に余裕があれば、可能であった。どなたか試みては如何でしょうか。

さて前ページの図I (省略)を説明する。池が峰南方の①のコルに到着。そこから東へルートを取るつもりだったが、快調に山スキーを堪能した為、方向を失い(結局は林道のトレースを見失って、②地点まで下降、実際には南東-南南東に、結果的に進んだようである。)トラバース気味に③④を通過、(南下すれば林道に出ると思ひ)南下し⑤に到達。ガスの切れ間から見ると、川(or 沢)が蛇行してい

る。この時点で明らかに林道を通(気付かぬまま)して、⑤地点に到達したことを確認し、トレースを引き返す。④に戻り、更に北東に登る。なんとくつきりとしたトレースが、林道に付いて居るではないか!こんな単純なルートを外した理由に、次の3点が揚げられる。

その1:天候の悪化。その2:林道の吹き溜まりを横断して、林道のトレースを見失った事。その3:原因として、過信、冬期に於いて人間の感覚は全く当てにならない。以上、恥をさらす事によって、轍(テツ)とします。恥ずかしながら。

(3年元18期 鈴木栄)

## 昭和52年3月5日(土)

3: am

毎晩(3日目なのだ)、WHITEを飲んで、FMのジャズを聴いては、PIPE (PertersonのパイプでDunhill・My・Mixture・965)を、喫していると(キザに聞こえるが)ほんと、SWINGして最高!! FM東京とDunhillがあれば、どこへでも、どんな僻地でも行ける気がする。心・気持・精神・たましい・が内側からめくれてきて、ゼリーのように肉体から湧きだし、体外に静かに拡がって…世界に拡がって行く。キース・ジャレットのケルンコンサートを聴いているみたい。拡がっていくたましいが、自然の優しさ・柔らかさに溶け込んでゆく快感。

ps I LOVE YOU. (S. S.)

(3年元18期 鈴木栄)

9:30am

今日の朝飯もチャーハン。これで3日続けてなのだ。前日作っておいたチャーハンをフライパンで温めるだけ。非常に簡単。タイマン向きなのだ。味はゲーッ! 外には新雪が30-40cm程 積もっている。さて、今日一日どうしようか。山に入れば、ドラッセルが待ち構えていることは間違いないし、こうして暖かいオコタに入っていると、外へ出るのはゴメン という気持になってくる。FM東京を流しながらレモネードを飲んでる朝のひとつ。ノンビリしていて実にいいものだ。

今日の仕事として考えられるものをいくつか挙げてみよう。まず、せっかく掘った井戸も、昨夜の雪で埋まっているだろうから再び掘り起こすこと。造林小屋の雪下ろしもやらなくては。…考え出せばキリがないから、もうこれでお終い。レモネードを「ズズズーッ」と飲む。「ハーッ! 利くー」

今日は3月5日、小生の教えている子供達(中学3年二人)の入試の合格発表日。結果は如何?その子

供から聞いた話を以下に再現しよう。次のページをご覧ください。

女の人が犬とじゃれ合っているところへ一人の男が通りかかった。

男「おまえ、何故、豚とじゃれ合っているの？」

女「失礼しちゃうわね。これは豚ではなくて犬よ。」

男「お前に聞いているんじゃないで、犬に聞いているんだよ。」

女「…」

と、マアこんな話を毎日、小生に教えてくれる子供達なのです。子供達の朗報を期待したいものですね。

### 3年元 18th (T.U.)上野

さてここで、昨夜眠くなつたため中断した「赤倉」の話の続けることにしよう。

我々は 1840m ピークからは、元来た道を正確に引き返したのだが、尾根通しを滑るよりも、渋谷を滑降した方が、より快適ではないだろうか。渋谷は真っ直ぐに第4に続いているため、たとえガスが濃くても直進すればルートを失うことは無いだろう。我々の下った尾根は、もろアイスバーンに変わっており、結構泣かされたが、山頂付近の傾斜のバーンに比べれば、大したことは無い。一番ビックリしたのは、第4ゲレンデに出てからで、粗悪なギャップの上に乗っかっている新雪には参った。ゲレンデに出てからは随分と転倒したものだ。

今日の山行が成功した最大の要因は、何と言っても「赤倉」に登りたいの一念だった。ヤル気 なくしては 道は開けまい。赤倉から見た三田原山に幻滅を感じて、ヤル気が無くなったので、三田原には多分登らない。(地図省略)

### 3年元 18th (T.U.)上野

## 昭和 52年 3月 6日 (日)

1:20am

さて、栄君と昨日の4時から始めた二人麻雀が今終わったところです。これから昨日の晩飯を作って食べようと思います。日頃、タイマンと言われる私達とて、胃袋はタイマンではないので、腹が減るわけです。晩飯のメニューは、烏釜飯、麻婆豆腐の豆腐の入っていないやつ、中華スープ、ベーコンと玉葱の炒め物、そして食後にはレモネードを飲む予定です。今日(いや昨日)は、一日中小屋の中で過ごしました。屋根の雪下ろしは一昨日やったきりで、後はあまりやれなくて御免なさい。

明日、私達は横浜へ帰る予定なのですが、シュラフに入ると起きられそうも無いので、疲れた体にむち打って” ホワイト” を飲みながら徹夜して朝を待ち

ます。尚、部屋に転がっている” ホワイト” の大瓶には、液体が少し残っていると思いますが、その液体は正真正銘のウイスキーであって、決して青酸ナトリウムなど入っておりませんので、安心して拾い飲みして下さい…。

7:15am

眠らない筈だったが、やっぱり眠り込んでしまった。今朝はいつもより暖かいような気がする。時を忘れたかのように、私達が自然の中に溶け込んでいる間にも、下界では様々なハプニングがあったらしい。何でも、右翼の連中(盾の会会員)が、財界の牙城、経団連会館へ殴り込みをかけたとか。右翼が反体制的な動きをするなんて珍しいものですね。右翼の攻撃の対象になるのは、大抵左翼だったのが今までの通例だから。全日空ルートでの被告、橋本登美三郎が、彼のホームグラウンド、水戸の神社で、精神障害者に左胸を 10 cm (?ホントカナ) 近く刺されたとか。その精神障害者は「橋元は金を貰っているくせに、白を切ってケシカランヤツだ、殺してやる」と口走っていたという。先日、東京八重洲の地下街に置き去りにしてあったチョコレートには、「醜い日本人に天誅を下す」という一文が添えてあった。なるほど、財界にせよ、政府黒色高官にせよ、或いは醜い日本人(一体誰を指しているのか?)にせよ、庶民からすれば、腹の立つことは山ほどあろう。しかし、だからといって、これらの連中に暴力で脅威を与えたり、殺したりしようとするのは、余りに思考が短絡過ぎる。右翼の財界殴り込みは、行動派右翼のマスターベーション的なものを感じ、三島の腹切り同様、ウンザリさせられる。毒入りチョコレートだって、それを拾って食うのは、良識在る悪者ではなくて、青酸コーラを飲んで死んだ高校生や、最低の生活をしている労働者やワンゲル部員(失礼!)などのように、どちらかと言えば底民である確率が大きであらう。「醜い日本人に天誅を下す」等という、粹がった事を書いているが、犯人の本心は、唯 人がのたうち回って死ぬのを楽しみたいという残酷なものではないだろう。己のマスターベーションの為には、人を殺しても構わないと言う心理には、ナチのアウシュビッツ的なものを感じる。橋元を刺殺しようとしたのは精神障害者だったと言うが、精神障害者とそうでない者を、どこで区別するのが、あまりハッキリしていない以上、簡単には片付けられない問題だ。…

ともかく新聞が読みたい。活字に飢えている。昔は、山に永住したいと本気で考えたこともあったが、やはり私は都会的な人間なんですね。最近では、自分の日常生活の延長上に山を置けなくなった事が何と

も寂しい。何が何でもピークを目指さなければダメなんだ的な思考が自分から遠のいていく。山に居る雰囲気を感じると味わう方がどれほど貴重に思えることか。小屋の外へ小キジに出るとき、樹木に光っている樹氷を見た時など、やはり自然はいいものだなと思う。何というか、最近「山」に対してあまりこだわりが持たなくなってきた。現部員の皆さんはどうですか？

さて、私と栄君は、妙高二号で横浜へ帰ります。二日から今日までの五日間、とても有意義に過ごせました。仕事をあまりやれなくて御免なさい。栄君は未だ起きません。彼を揺り動かしたところ、「今日は帰らない。寒さと眠気には叶わない」そうです。そんなわけで、私一人帰ります。山小屋委員長の南君、事前に連絡を取れなくて御免なさい。私の小屋の宿泊費、250円×4泊分=1000円。栄君に預かってもらいます。

### 3年元18th (T.U.)上野

T.U.=上野敏彦 → (上野)

ツン・ツン・ツノダの T.U.号 という自転車のコマ・ソンが、昔あったが、その T.U.君もゲレンデを自転車に乗って、ツン・ツンと下っていきました。「寒さと眠気にはかなわず」リフト券も残っているので、予定通りもう一泊します。山下さんもツボちゃん(彼はマージャンで、いつもビリで仕事ばかりさせられ、対々和しか知らない T.U.君にも馬鹿にされ) 帰り、T.U.は6頁半も小屋日誌を書き続け、精力使い果たし、「俺は都会人だ。」という捨てぜりふを残し、結局小生一人です。

さて、スキーでも、と思いつきの出ると、ド快晴！「午後のシャンソン」を聞きながら、優雅にランチ(と言っても、ベーコンとチャーハンとコーヒーとレモネード)を摂り、即カメラを持ってゲレンデへ。日曜というのに、不況のせいとか又、前日までの大雪のせいとか、人影まばら。190cmのスキーで、まあまあうまく滑れた。昨年は205cmのオールド・ファッションド・スキー(エッチがボロボロ)、一昨年は、150cmの山スキーで醜態をさらしたのだが。

P.S. 向井へ K2 ありがとう。ストックを修理したが、あんなものでいいだろうか。

皆さんへ ブタピカのガラスを割って御免なさい。ボンドで修理したら、ステンドグラスになってしまった。

南へ 連絡出来ぬまま、小屋に来てゴメンナサイ。361-8408に電話してくれれば、ブタピカランプの事で弁償するにしても何にしても、話したいのですが。

皆さんへ 造林小屋の雪下ろしをしてください。

五八木荘で頼まれたのですが、T.U.と小生では、非力でしたので。

(3年元18期 鈴木栄)

## 昭和52年3月7日(月)

昨日、今回の山行で初めてチロルへ行きました。久しぶりにジャンボ・コーヒーを飲んで、一人で居ます。茶色のサングラスかけて、思い出し笑い。さて、帰ろうとすると、第3リフトで女の子に「さかえさーん」と声をかけられました。「ヤバイ！逃げよう」と思ったら、声の主は今野(19期)ではないか。K大と一緒に五八木に居るとのこと。喋りながら滑っていたら、第2リフトでリフトが止まる。仕方がない、と登り返す。途中疲れて、一本とる。スキーを尻に敷き、妙高外輪山に背を向け座る。眼前に広がる越後の山々。ゲレンデはもう誰も居ない。煙草を吸いながら、乳白色に山々が染められるのを眺める。充足感！？もっと深いものだ。もう少し経たねば、もう少し心で暖めなければ、表現出来ないもの。最も近い言葉が一体感という言葉だ。

山小屋は小生一人。何者かに試されているような、また自分自身が自らを試している実験室の中にいる。しばらくしたら、その結論が出せそうです。出さねばならない。

現在、8:00am。そろそろ帰ります。横浜へ帰り、すぐ米沢へ帰ります。掃除しました。一応きれいにした積もりです。

今野が今日、小屋に来るでしょう。コタツの上にコーヒーとビスケットを置いときます。サヨナラ。小屋で一人になれたことが幸いでした。

(3年元18期 鈴木栄)

P.S. 小屋代 上野・・・¥250×4

鈴木・・・¥250×5 計¥2,250.

9:30 到着 快晴 -1℃

16期 池谷文明 18期 山口貢三

第二ゲレンデを栄が尻尾を巻いて帰るのを見つけたが、声はかけられなかった。窓の明かりが在り、思ったより積もっていない。大変暖かい。まずはコーヒータイムです。栄君のコーヒーが残っているので、失敬して飲む。小屋は意外にキレイである。これから、魔の食器洗いとゴミ焼きです。え？何故 魔 だって。そりゃ私以外に誰が居るとおっしゃるのですか。相手がI氏ではねえ。今夜はきつと喧嘩でしょう。

約束事

1. 食器洗い
2. ゴミ焼き

1020

3. 階段づくり

4. 決定事項は”じゃんけん”で決める

※1, 2, 3は共同作業。山口 池谷 印

11:00 終了(二人は一生懸命やった)

ここでまた一服。栄君の後片付けの状態を報告。

一. 食器→汚れて食器は膨大也。我々の食器だけ洗う。

二. ゴミ→焼いてない。

三. 鍵をかけてない。

四. 練炭点けっぱなし。

12:00 昼食、引き続き tea time。

(文責 山口) ←強制された。

3年18th 山口

12:50 到着。快晴

今野幸子(友達2人)

杉野沢のバス停で栄さんと会いました。コーヒーの用意がしてあるとのこと、只今参上致しました。

「フランスパンや野菜、ビスケットもあるよ」と言われ、食物に釣られて来たわけです。では、いただきまーす。

・フランスパン、コーヒー。

・キュウリ、はっさく、ソーセージ。

・ククレシチュー。ご馳走様でした。(このうち、キュウリとククレシチューは、山口と池谷の晩食の献立に入っていた。[もちろん、山口が負荷してきたもの]二人、真っ青! 怒り心頭!!)

2年19th 今野

友達その1

雪の中をトラバースして到着した、雪のキノコのような小屋です。山に登っても、テント生活したことのない私メとしては、”小屋”とは何と優雅なことかと、羨ましく思います。部外者も宿泊できるらしいですね。夏山登山の時はお世話になろうかしら…。温かいコーヒーと甘いビスケットは、スキーの後の息抜きに抜群でした。ご馳走様でした。

今野さんの友達 通称 **Otama** より

友達その2

スキー場のすぐ横にあると聞いていたのに、いくら探しても見つからず、こんな遠くまで歩かされて、くたびれた。その上、中は大変寒く閉口。でも温かいコーヒーとシチューをご馳走になり、これからもう一滑り頑張ってきます。

明日また来ます。今度は何か持ってきます。誰も居ないと聞いていたのに、貢三さんや池谷さんが来ているようで嬉しくなりました。会えなくて残念?何

も無いので、アメを置いて行きます。

五八木より愛を込めて

2年19th Kon 今野

5:30pm 気温1℃

今日は快晴で、絶好のスキー日和だった。1日中暖かく、上着一枚で滑っていた。夕食も早く摂り、池谷さんのギターを聞いている。小屋はきれいになり、大変快適である。二人には少し広すぎる。小屋…スカボロフェアーと煙草の煙だけが漂う。それに温かい紅茶と1本のろうそく。

今日の出来事

僕は今日から輝く造船科の星になるため、3日間試練の時を過ごすことになりました。池谷 早く帰れ!

3年18th 山口

## 昭和52年3月8日(火)

気温0℃ 快晴

天気もいいことだし、2日券で存分に滑るつもり。それから今野さんへ、もし小屋に来たら、水は必ず雪で作って下さい。昨日、夕食とその水で随分困りました。

中島君へ、もし買い出しに行くなら、シチュー×2、ラーメン×3、クリープ、ロール×1を買ってきて頂けませんか。

最後に、小屋の机に出してある食糧には、手を付けないでください。

1時頃早稲田小屋に人が居たので早速行ってみる。ついでにマージャンに誘ったりして…。5時過ぎ、早稲田の先発隊3名(早稲田は9日から合宿)全員が来訪。酒をチビリチビリやりながら、パイをかき混ぜたりして…。負けた者(4位は朝の食当、3位は小間使い)には罰を与える事にした。結局、国大コンビ(山口・池谷)の圧勝に終わり、早稲田チーム(霜鳥3年、山田・神保2年)が朝の食当と小間使いを一手に引き受ける羽目になったりして…。

(資料1参照 :省略)。その夜は早稲田の3人は泊まった。

3年18th 山口

## 昭和52年3月9日(水)

早朝4:00前 気温4℃(8:00am)

突然ドカーンという音がした。この音で全員目覚める。その後 すぐまた眠る(中には、恐怖の余り1時間近く起きていた人も居た)。朝、明るくなって

1021

出てみると、今まで屋根に積もっていた雪が、全てブロックで崩れていた。その音の直後の感想を以下に述べる。

その1：「爆弾が落ちたと思った」と答えた人、2人

その2：「UFOが音速を超えた音（衝撃波）」1人

その3：「火山の爆発」2人

その4：「超常現象に一種」1人

尚、小屋に居た人5人、感想は一部重複あり。

朝は約束通り、3年の霜鳥君に作ってもらう。当分飯は炊いてないとのこと。出来た飯は炊き込みご飯にスープ。半分オジヤ、半分芯飯であった。でも「おいしい」と言って食べた。

11:30 早稲田小屋を訪れる。その内の模様を以下に示す。(図面省略)。ここでココアを飲ませて貰う。今年、早稲田は冬のテーマとして、スキーと生活 というようなものを出しており、小屋から大糸線の小谷温泉にスキーでツアーをし、途中、天狗原山にピストンすることで、所謂山岳スキーとの融合を計るそう。また、遭難対策も仲々しっかりしていて、冬の偵察で、雪尻の張り出し具合とかの地形を研究したり、スノーボードを全行程持ってゆくそう。この日、大橋英一氏来る。

## 昭和52年3月10日(木)

気温 -1℃

昨夜 少し雪が降り、ゲレンデはアイスバーンとなり山スキーで滑るのは少しつらい。この日、10人入小屋。磯尾、井上、加賀、下村、石垣、松本氏(OB)。昼 3:00 中島、弓削、和田、熊沢。池谷氏(OB)帰る。

3年18th 山口

## 昭和52年3月11日(金)

曇り

今日の入小屋 中村、笛木、田本、作山、水田、古橋、横山、武藤、太田。早朝未明 磯尾・中島・井上君ら3人は、笹ヶ峰まで偵察に出発。ご苦労様。私はゆっくりとゲレンデに出る。昼飯をサンアントンで食べ、3時には引き上げる。明日帰ります。スキー歴3年目、やっとならど国際ならどこでも、一応適当に滑れるようになりました。しかし、ここしか滑ったことがないので、果たして他の所で通用するかどうかは疑問、他の皆様の滑っているのを見て一言。斜滑降姿勢がなつとらん！前傾ができてない。…と言っても私も、同じ穴の貉(ムジカ)とでも言うようなもの。しかし、これからもバシバシ滑ってエキスパートを目指すのだ。もっと攻撃的なスキーヤー

を目指して。

毎年、この頃は山小屋に居るのです。去年も一昨年ここに居ました。今、コタツに入っています。たった今、私のような者に、誕生祝いをごく簡単且つ華麗に、やって貰いました。どうも有り難う。でも、誕生日も二十数回もやったので、少々飽きています。スキーも冬までお預けだ。SKIって本当にいいですね。昔は、ワングルと一般スキーヤーとの区別は明瞭でしたが、この頃は、その逆なのです。今日も不格好な恰好をした人を見つけ声をかけようとしたところ、他人だった。その後から華麗な姿の(パンタロンにキルティング)ワングルの人が来たのです。古き時代は去った。唯一つの見分け方が残っている。それは、その人が転んだり腰掛けの無様なFORMだと、ワングルということです。

私の1週間の休日も、これで終わりです。横浜に帰れば関東自動車学校の鬼の教官が待ち構えています。4月から私も4年生。早いものですね。いよいよ私も神の座に着きます。でも(何でもそうですが)なってみれば、大した事は無いですね。笹ヶ峰へ行く現役の皆様(おっと、実は私も現役。失礼)良いスキーツアーになりますよう。たまには僕を使って下さい。でも、あんまり役に立たないよ。いや、きつと役に立つ日はやってこないだろう。英一がうるさいからこゝらで止めます。さようなら。

18th K. Y.

山小屋日記11号完